

第57回日本PTA全国研究大会

みやぎ大会

山内俊夫文部科学副大臣 祝辞



山内俊夫文部科学副大臣

閣下の施策の実施に努めておられます。

第五十七回日本PTA全国研究大会が、ここ宮城県で、盛大に開催されます。

文部科学省におきましては、昨年七月「教育振興基本計画」を策定し、今後、目指すべき教育の姿や取り組みべき施策を具体的に示しました。

近年、経済のグローバル化や情報化の急激な進展等にもない、人間関係の希薄化や、家庭や地域の教育力の低下が大きな課題となつていられる中、家庭や地域において実際に子どもたちが向き合っているPTAの役割は、大変重要なものとなっております。

「学校支援地域本部事業」や「放課後子ども教室推進事業」を、学校、家庭、地域の連携、協力体制を強化し、地域の教育力を向上していくための具体的な施策と位置づけ、各地の活動を支援しているところです。

また、昨今の厳しい経済情勢による所得格差の拡大や雇用不安が懸念される中、人生前半の社会保障として、公教育の機会を確保することがますます重要になっております。塩谷大臣が主催した「教育安心社会の実現に関する懇談会」は、先月三日「公教育の負担の安心」と「公教育の質の安心」の両面について社会全体で取り組むことの必要性と具体的な方策について報告を取りまとめたものであります。文部科学省として、これらの提案を踏まえて、可能な施策から速やかに実行できるよう、努力して参ります。

第58回全国PTA研究大会

第42回日本PTA関東ブロック研究大会
ちば大会
平成22年8月27日(金)・28日(土)
花・海・房



主催 社団法人 日本PTA全国協議会 関東ブロックPTA協議会 千葉県PTA連絡協議会

来年は千葉で!

全体会 記念講演

脳科学から見た 早寝・早起き・朝ごはんの大切さ

川島 隆太氏 (医学博士) (東北大学教授)



8月22日(土)宮城県利府町にあるセキスイハイムスーパーアリーナに於いて、全体会記念講演が開催された。
著書「脳を鍛える大人のドリル」やテレビ出演などで知られている東北大学の川島隆太教授をお招きし、「脳科学から見た早寝・早起き・朝ごはんの大切さ」と題し、氏の専門分野である「脳科学」について、研究結果と実験の映像を交え判り易くお話し頂いた。

1959年生まれ。千葉県千葉市出身。東北大学加齢医学研究所教授。1985年東北大学医学部卒業、平成元年東北大学大学院医学研究科終了、スウェーデン王国カロリンスカ研究所客員研究員、加齢医学研究所助手、同講師、東北大学未来科学技術共同研究センター

「一家庭で親子が関わり合う事」が必要である。具体的に親と子が何を一緒にやるか、そして子どもの出来た事をすぐ褒めてやる(話しかける)事が一番大切なことであると話された。そして、このことを証明する実験映像を流しながら「脳(前頭前野)の働きを上げるというもう一つの実験です。子どもとお母さんと一緒にトーストを焼いてもらいました。お母さんが声掛け「お手ね」とほめると前頭前野が非常に活発に動いているのが判ります。これはすくなくともタメなので、あとから「さっきは上手に出来たね」と言っても脳は動きません。親と一緒に何かやること、話しかける事がとても大切なのです。読み書きそろばん、といいますが「料理」は手を使います。考え、親と一緒にやることで脳の発達を促しているのです。ぜひ、時間を惜しまないで子どもさんをほめてあげてください。」と、締めくくられた。



次期大会をアピールする千葉のPTAの皆さん

携帯電話の約束。子どもたちのことを考えよう。
保護者のみなさまへ
川崎PTA連絡協議会

県民自慢 川崎市P シリーズ57
よりわかりやすいインターネット啓発へ
川崎市PTA連絡協議会会長 小原 良

第31回広報紙コンクール表彰式

受賞おめでとう！42紙が受賞



表彰を受ける受賞者

第31回全国小・中学校PTA広報紙コンクール表彰式が、8月21日、日本PTA全国研究大会みやぎ大会の第4分科会場で行われた。応募総数6194校の中から一次・二次・三次・最終審査を経て、小・中学校各21校、計42校のPTA広報紙が優秀広報紙として表彰された。

文部科学省からは生涯学習政策局社会教育課長神代浩氏が出席し、祝辞を述べられた。

表彰式会場には各賞を受賞したPTAの代表が多数出席し、喜びを表していた。

文部科学大臣賞、日本PTA会長賞、日本教育新聞社社長賞、教育家庭新聞社

受賞の喜び

文部科学大臣賞
富山県富山市立山室中学校PTA

県広報紙コンクールで受賞できただけで充分と思っ
ていましたので、驚きま
す。とても光栄です。

3年連続全国受賞のため、プレッシャーを心配さ
れましたが、全くなく、先
生やPTA役員も出席され
た第1回の委員会、「賞は

日本PTA会長賞
静岡県静岡市立葵小学校PTA

誌面作成の過程でコンク
ール等への出品などを意識
していませんでした。朝報
を聞き、入賞した紙面作成
に携わったことをうれしく
思い、誇りを感じました。

日本PTA会長賞
山形県酒田市立松原小学校PTA

栄誉ある賞をいただきあ
りがとうございました。今
後広報制作をする上で、良
い励みになります。学校の
創立20年記念誌の制作と重
なった年でもあり、広報の
発行と本立のきびしい1年
でしたが、関係者の皆さん
のご協力でのりきれまし
た。

日本教育新聞社社長賞
神奈川県栗野市立西中学校PTA

「西中PTAだより」とし
ての発行が最後となった
年、このような大きな賞を
いただくことができて、と
ても良い記念になりました。
ありがとうございます。

教育家庭新聞社社長賞
茨城県水戸市立三の丸小学校PTA

このような賞がいただけ
るとは思ってもみません
でした。多くの方がかわつ
てきた広報紙だったので
大変うれしいです。委員
だけが作る広報紙になら
ないようPTA会員へのアン
ケートを通して気になって
いること、取り上げてほし
いこと、聞きながら、企
画の段階から多くの会員
にかかわってもらいたいと思
っています。

教育家庭新聞社社長賞
福島県いわき市立平第一中学校PTA

すばらしい賞をいただき
ありがとうございます。大
変うれしく、常々協力いた
だいている保護者の皆さん
や教職員の皆様への感謝の
気持ちで一杯です。「作り
手が楽しくなければ、」
を基本原則にPTA会員の
皆さんが関心を持ち、手に
にとって読んでいただける広
報紙、そして、保護者の皆
さん一人一人が参加する広
報紙を目指して、今後も取

写真賞
富山県魚津市立大町小学校PTA

昨年の企画賞に続き、今
年の写真賞を受賞した。今
回の写真賞の受賞は広報
紙づくりに携わった広報部
員の大きな励みになりました。
県の受賞も含め、今年
の全国表彰は大町地区の
活発で多彩な地域活動が評
価されたものと思っていま
す。

写真賞
大分県大分市立大分南小学校PTA

手探りから始まった広報
紙作りでしたが、県のコン
クールに続き、全国でも受
賞でき、部員一同、夜遅く
までがんばってよかったと
感じました。昭和初期に撮
られた写真と同じ場所を探
すのに苦労しました。とに
かく取材に走り回った一年
でした。

佳作
宮城県大和町立大和南小学校PTA

「開催地の受賞を！」
を目標に頑張りました。一
つの夢がかないました。
学区再編2年目の新しい
学校です。四つの地区(中
学校)が一つになり、「広
報」の考え方もそれぞれで
した。それをブレンドする
のも楽しい会議でした。
「広報紙」は出来上がった
形ですが、それまでの企画
会議の話合い、またア
ンケートなどは会員の皆さ
んへのその時々問題提起
であったりすると思いま
す。その過程がP・T・A
活動であり、仲間作りでし
て頂ける魅力ある広報紙作

佳作
愛知県半田市立横川小学校PTA

毎日のように学校へかよ
い作り上げた広報紙なの
で、広報部一同、大変うれ
しく思っています。3学期、
入稿間近に決めた英語授業
の特集は、まだわからない
ことが多い中、学校側にも
ご協力頂き、試行錯誤して
作りました。一つ一つ話し
合い、多くの方々に楽しん
で頂ける魅力ある広報紙作

佳作
兵庫県西宮市立北六甲台小学校PTA

まさか受賞できると思
って見なかったものでピッ
クリしました。一年間の努
力が報われたようで広報
部一同喜んでいきます。振
返ってみるとまだまだいろ
いろな記事を紹介できたの
ではという後悔の念もあり
ますが、一年間有意義な活
動をすることができまし
た。

佳作
群馬県太田市立城東中学校PTA

たいへん有難く思いま
す。予定時間を過ぎても終
わらなかつた話し合いや、
校正などの細々とした作業
も、報われた気がして、今
後はのびやかなります。受
験生とその保護者の生の声
を集めるために、日程をギ
リギリまで遅らせてアンケ
ートのとりまわりました。皆さん
の協力があってこそ実現し
た企画です。



優秀広報紙を会場に展示

企画賞
栃木県宇都宮市立一条中学校PTA

「栄誉ある賞をいただきあ
りがとうございます。紙
面作りに関わった一校中

佳作
島根県浜田市立周布小学校PTA

広報紙コンクール出品2
回目にして、「入賞」とい
うことでとてもおどろきま
した。企画・校正・編集・
印刷・発行まですべて保護
者の手作りの広報誌です。
今後とも今までもお手作
り感の感じられる保護者目
線の情報の発信を行い、ま
ます保護者・学校・地域
のみなさんと連携を深め
ていけたらと思います。

佳作
大阪市立大開小学校PTA

嬉しさよりも驚きの方が
大きく、全国何千校の中
で、佳作といえど、受賞し
たことが委員全員信じられ
ませんでした。思わず読ん
でみたくなるようなPTA
活動の記事とは？を考えた
一年でした。また毎年委員
のカメラ技術向上の為、保
護者でカメラに詳しい方を
講師に迎え「デジカメ講習
会」をしています。

佳作
福岡県福岡市立井城小学校PTA

大変名誉ある賞をいただ
き嬉しく思っています。九
州の田舎の小さな小学校で
あるのが全国レベルで
賞を頂けると思っていま
せんでした。佳作にとま
らずこれがPTA新聞だ！
というのを目指し、手作
りの新聞で一方通行になら
ない、返ってくる新聞を作
りたいと思います。

佳作
大分県大分市立大分南小学校PTA

手探りから始まった広報
紙作りでしたが、県のコン
クールに続き、全国でも受
賞でき、部員一同、夜遅く
までがんばってよかったと
感じました。昭和初期に撮
られた写真と同じ場所を探
すのに苦労しました。とに
かく取材に走り回った一年
でした。

佳作
宮城県大和町立大和南小学校PTA

「開催地の受賞を！」
を目標に頑張りました。一
つの夢がかないました。
学区再編2年目の新しい
学校です。四つの地区(中
学校)が一つになり、「広
報」の考え方もそれぞれで
した。それをブレンドする
のも楽しい会議でした。
「広報紙」は出来上がった
形ですが、それまでの企画
会議の話合い、またア
ンケートなどは会員の皆さ
んへのその時々問題提起
であったりすると思いま
す。その過程がP・T・A
活動であり、仲間作りでし
て頂ける魅力ある広報紙作

佳作
愛知県半田市立横川小学校PTA

毎日のように学校へかよ
い作り上げた広報紙なの
で、広報部一同、大変うれ
しく思っています。3学期、
入稿間近に決めた英語授業
の特集は、まだわからない
ことが多い中、学校側にも
ご協力頂き、試行錯誤して
作りました。一つ一つ話し
合い、多くの方々に楽しん
で頂ける魅力ある広報紙作

佳作
兵庫県西宮市立北六甲台小学校PTA

まさか受賞できると思
って見なかったものでピッ
クリしました。一年間の努
力が報われたようで広報
部一同喜んでいきます。振
返ってみるとまだまだいろ
いろな記事を紹介できたの
ではという後悔の念もあり
ますが、一年間有意義な活
動をすることができまし
た。

佳作
群馬県太田市立城東中学校PTA

たいへん有難く思いま
す。予定時間を過ぎても終
わらなかつた話し合いや、
校正などの細々とした作業
も、報われた気がして、今
後はのびやかなります。受
験生とその保護者の生の声
を集めるために、日程をギ
リギリまで遅らせてアンケ
ートのとりまわりました。皆さん
の協力があってこそ実現し
た企画です。

優秀広報紙集
第31回全国小・中学校PTA広報紙コンクール

「広報紙はPTA活動の活性化をすすめる最良の媒体」
品がこの優秀広報紙集に掲載されている。
各受賞作品の審査総評や「ワンランクアップ」の紙面の作り方など、伝達情報の媒体としてのみでなく連携の絆としての役割を担う

—購入方法—
はがきまたはファックスで日本PTA全国協議会事務局までお願いします。
定価 1,800円 送料290円(いずれも税込み)
社団法人日本PTA全国協議会
〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-38
TEL 03-5545-7151
FAX 03-5545-7152

べての方に感謝です！これ
からも読まれる広報紙を目
指していきたいと思いま
す。

写真賞
富山県魚津市立大町小学校PTA

昨年の企画賞に続き、今
年の写真賞を受賞した。今
回の写真賞の受賞は広報
紙づくりに携わった広報部
員の大きな励みになりました。
県の受賞も含め、今年
の全国表彰は大町地区の
活発で多彩な地域活動が評
価されたものと思っていま
す。

写真賞
大分県大分市立大分南小学校PTA

手探りから始まった広報
紙作りでしたが、県のコン
クールに続き、全国でも受
賞でき、部員一同、夜遅く
までがんばってよかったと
感じました。昭和初期に撮
られた写真と同じ場所を探
すのに苦労しました。とに
かく取材に走り回った一年
でした。

佳作
宮城県大和町立大和南小学校PTA

「開催地の受賞を！」
を目標に頑張りました。一
つの夢がかないました。
学区再編2年目の新しい
学校です。四つの地区(中
学校)が一つになり、「広
報」の考え方もそれぞれで
した。それをブレンドする
のも楽しい会議でした。
「広報紙」は出来上がった
形ですが、それまでの企画
会議の話合い、またア
ンケートなどは会員の皆さ
んへのその時々問題提起
であったりすると思いま
す。その過程がP・T・A
活動であり、仲間作りでし
て頂ける魅力ある広報紙作

佳作
愛知県半田市立横川小学校PTA

毎日のように学校へかよ
い作り上げた広報紙なの
で、広報部一同、大変うれ
しく思っています。3学期、
入稿間近に決めた英語授業
の特集は、まだわからない
ことが多い中、学校側にも
ご協力頂き、試行錯誤して
作りました。一つ一つ話し
合い、多くの方々に楽しん
で頂ける魅力ある広報紙作

佳作
兵庫県西宮市立北六甲台小学校PTA

まさか受賞できると思
って見なかったものでピッ
クリしました。一年間の努
力が報われたようで広報
部一同喜んでいきます。振
返ってみるとまだまだいろ
いろな記事を紹介できたの
ではという後悔の念もあり
ますが、一年間有意義な活
動をすることができまし
た。

佳作
群馬県太田市立城東中学校PTA

たいへん有難く思いま
す。予定時間を過ぎても終
わらなかつた話し合いや、
校正などの細々とした作業
も、報われた気がして、今
後はのびやかなります。受
験生とその保護者の生の声
を集めるために、日程をギ
リギリまで遅らせてアンケ
ートのとりまわりました。皆さん
の協力があってこそ実現し
た企画です。

分科会 報告

第1分科会～第5分科会

第1分科会

組織・運営

PTAとは何だろうか？ 難だろうか？軟だろうか？



今大会で、北に位置する第1分科会場は、「佐沼鹿踊」で始まり、随々と式典は進みました。此処に至る迄の実行委員の皆様の意気込みを大いに感じました。

引き続き行われた、マーティ・キーナート氏の基調講演は「TEAM S-1 ムワークの真の意味」と題して行われました。ご自身の豊富な経験を踏まえたご講話は大変面白く、後半の「ほめる事」の大切さは、私自身も参考にしたいと思いました。そして、氏の丁寧な「日本語力」もあらためて伝える事の大切さを考える良い機会となりました。

昼食を挟んで、元登米市PTA連合会長佐々木伸雄氏の実践発表、続いて4名のパネリストによるディスカッションは、多くの事例を交えて、「PTAとは何だろうか？難だろうか？軟だろうか？」と普段、私達が抱える問題を解決する良いアイデアを沢山披露しました。質疑をされた参加者の方も満足の様子でした。

会場に併設された地元の物産即売展もあり、足をこぼれた全国の参加者に好評でした。



第4分科会

情報活動

情報社会に対応し、より効果的な広報活動

第4分科会では「情報社会に対応し、より効果的な広報活動」を研究課題として蔵王町ふるさと文化会館で開催されました。

まず、子どもたちの「遠刈田太鼓」による勇壮な音の響から始まり、午前の部は日P広報紙コンクール表彰式が各部門の受賞校代表者出席のもと行われました。

午後の部は、元警視庁警察官・少年犯罪予防委員会代表の幸島美智子氏が「食生活の中ですべて答えがある、という話でした。何気ない日常がとても大切であることをあらためて学ぶ事ができました。

日理小学校と登米市立南方中学校の二校の事例発表があり、会場からも熱のこもった意見等がありました。

続いて日P活動報告を聴いた日本PTA全国協議会環境対策委員会前副委員長の山田幸久氏が行い、「子どもとメディアに関する意識調査」の結果をもとに、テレビ・有線図書・ゲーム・携帯電話の危険性、保護者としての意識の違ひなどの報告とともに「携帯・ネット関連事業者との情報交換会」の報告があり、会場では驚きとため息が交錯しました。

蔵王町の分科会では、おいしい空気とお世話をいただいた人たちの笑顔がとても印象的でした。

第2分科会

家庭教育

家庭の果たす役割と『早寝・早起き・朝ごはん』



石巻市民会館で開催された第2分科会では、「家庭の果たす役割と『早寝・早起き・朝ごはん』」をテーマに、宮城県PTA連合会が平成17年より取り組んできた事を実践発表されました。

『早寝・早起き・朝ごはん』のアンケートからは、中々でも食育「朝ごはん」に対して、単位PTAにまで浸透し、実践されてきた5年間にわたるプロジェクトの結果がグラフでも紹介され、成果が着実に上がっていることを発表されました。

パネルディスカッションでは、各々各立場からの意見が出され、核家族化や少子化、あるいは社会環境の

第3分科会

学校教育

子どもたちが確かな『生きる力』を育むためのPTA活動

第3分科会では、昨年度の震災以来「がんばってます栗原」を合言葉に、市民一体となって復興活動に取り組まれている栗原市を会場に、「子どもたちが確かな『生きる力』を育むためのPTA活動」を研究課題に講演、発表、意見交換が熱心に繰り広げられました。

基調講演では、さとう宗幸さんの心温まるお話と歌があり、お母さんに対する感謝の気持ちに共感いたしました。

実践発表では、「みやぎらしい協働教育推進事業」をテーマに「起業教育」の取り組みについて、行政・地域・学校、それぞれの立場で実践報告があり、そのあと、テーマに沿ったパネルディスカッションがありました。

分科会全体を通して思ったことは、学校教育に保護者・地域が協力して、子供たちに多様な体験の機会を与えることは、子どもたちが「生きる力」を育む上で大切であるということでした。

また、そこに大人が愛情をそそぐことは欠かせないと思われました。

PTAの立場で、子どもたちが確かな「生きる力」を育むために、地域性をいかした学校教育への協力に、新たに「がんばろう」という気持ちになりました。



第5分科会

地域連携

育てよう！子どもは未来の宝 ～よその子ではなく、みんなの子どもに～

岩沼市民会館で開催された第5分科会では、「よその子ではなく、みんなの子どもに」と題し、やんちゃ和尚こと、西居院住職・廣中邦充氏の基調講演が行われました。

愛知県岡崎市にある西居院は、「平成の駆け込み寺」と呼ばれている。非行や家出、不登校や引きこもり、虐待やDV(家庭内暴力)といった問題を抱え、行き場を失っている少年少女を寺に預かり、常時15人前後が共同生活をしながら、寺から中学・高校や大学に通っている。

多くの親は子どもと向き合う努力を怠り、先生や教育委員会、子どもの友人など誰かのせいにしたがる。まず、「親の意識改革」が必要なのだと言及し、説く。

実践に基づいて熱く語る、涙とユーモアあふれる講演は、聴いていた全ての人々に感動を与えた。

パネルディスカッションでは、廣中氏がコーディネーターを務め、お父さんたちのネットワーク世話人の石垣政裕さんら4人のパネリストが、みんな子育てをするという視点から、どのように地域連携を実践しているのかを話している。その事例と、約900人の会場参加者による携帯電話アンケートを基に、子供たちを育むために必要な地域連携について活発な議論が行った。



分科会 報告

第6分科会～第9分科会

第7分科会

国際理解

つなげよう心の輪、みつめよう世界の国々、子どもたちの未来のために



七ヶ浜町の七ヶ浜国際村で「つなげよう心の輪、みつめよう世界の国々、子どもたちの未来のために」を研究課題に開催された第7分科会では午前、NPO法人ツバルオーバービュー代表理事の遠藤秀一氏の「みんなと一緒に考えよう、島国ツバルが直面する危機」と題した基調講演と午後、パネルディスカッションの2部構成で行われた。

地球温暖化の報道は多方面で取り上げられてはいるものの、海抜ゼロメートルに近い美しい環礁からなるツバル国が、海面上昇による危機に直面する状況が多くのスライドで紹介され、

七ヶ浜町の七ヶ浜国際村で「つなげよう心の輪、みつめよう世界の国々、子どもたちの未来のために」を研究課題に開催された第7分科会では午前、NPO法人ツバルオーバービュー代表理事の遠藤秀一氏の「みんなと一緒に考えよう、島国ツバルが直面する危機」と題した基調講演と午後、パネルディスカッションの2部構成で行われた。

地球温暖化の報道は多方面で取り上げられてはいるものの、海抜ゼロメートルに近い美しい環礁からなるツバル国が、海面上昇による危機に直面する状況が多くのスライドで紹介され、

第9分科会 環境教育



第9分科会 事例発表

第9分科会

環境教育

受け継がれてきた自然・生活環境を大切に、未来につながる地域社会を創ろう

大崎市で開催された第9分科会「環境教育」は、初の収穫を、持続可能な農業のために、日本産を保護するとして成り立たせたい等の興味ある中、田んぼの中から未来が見える、と題して、湿地の減少による生態系の変化、田んぼを湿地としてよみがえらせた、微生物の力を生かして、微生物の力を生かして、

かした付加価値のある作物を通して地域、ふるさとを愛する心、五感を通して自然とふれあひ、人、自然に優しく接する場面を創り出す取り組み、広い視点で環境・生物、他人の事を考える地域活動について発表がありました。

この分科会での討議を通じて、保護者、学校、地域がしっかりと自然とうまのを取り組み、今後の環境教育への取り組みを深められたと思います。

第8分科会

健康安全・食育

生活の基本である食の原点を考え、食を通して健全な子どもたちを育もう！

第8分科会は、すばらしい景色の志津川湾が一望できる、南三陸ホテル観葉で開催されました。

大森創作太鼓旭ヶ浦の勇壮な太鼓のアトラクションで幕を開けた分科会は、一ツ森は海の恋人「牡蠣が気づきがあること、学校での環境教育の可能性を学んだ分科会であった。

なほ、大勢の会場担当者の準備の行き届いた対応は、スムーズな進行とあわせ、すばらしい一言であった。

講演では、自分自身が牡蠣の養殖で学んだことについて。また、「森は海の恋人」運動では、木を植える運動と同時に、子どもたちにも環境教育の大切さを教えているそうです。

午後、志津川中学校吹奏楽部の心と心演奏の後、「学校全体で食育・スローフード運動」の実践について、気仙沼市立階上小学校教諭研究主任、小野寺裕史

大森創作太鼓旭ヶ浦の勇壮な太鼓のアトラクションで幕を開けた分科会は、一ツ森は海の恋人「牡蠣が気づきがあること、学校での環境教育の可能性を学んだ分科会であった。

なほ、大勢の会場担当者の準備の行き届いた対応は、スムーズな進行とあわせ、すばらしい一言であった。

講演では、自分自身が牡蠣の養殖で学んだことについて。また、「森は海の恋人」運動では、木を植える運動と同時に、子どもたちにも環境教育の大切さを教えているそうです。

午後、志津川中学校吹奏楽部の心と心演奏の後、「学校全体で食育・スローフード運動」の実践について、気仙沼市立階上小学校教諭研究主任、小野寺裕史

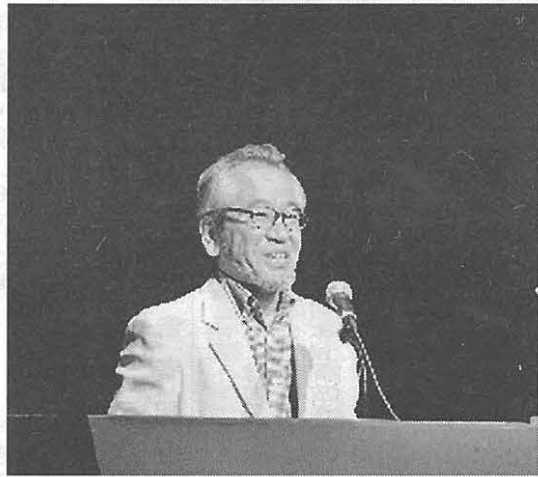


基調講演 島山重篤氏

第6分科会

人権教育

「心と心」 思いやりの心を育てよう！広げよう！



基調講演 三條秀夫氏

第6分科会は「心と心」思いやりの心を育てよう！広げよう！のテーマで宮城県白石市文化体育センターにて行われた。

400人余りの参加者を前に東北学院大学の三條秀夫先生に「基本的人権とは何か？ 私たちの何を守るための権利か？」のテーマで基調講演をいただきました。

まず人権思想の史的展開にはじまり、人の生き方・その人のらしさを大切にする、人の価値観、考え、方、思い、その人の意思意向を大

切にすることを教わりました。

また事例で、駅でぶつかり相手は骨折、小6でも賠償責任を命じられた、という事例で、「小学生とはいえ多数の公衆が上がり下がりに狭い駅の階段では、他人にいきなりぶつからないうように通行する義務がある」と裁判官は述べた。法

的には両親には支払い義務はないが、賠償を命じられた少年の責務は残ると教えたいいただきました。ここで人として行動に関する「選択の自由」があるが、「責任」が伴うことを教えるもりました。

乳幼児虐待・育児放棄、学校現場でのいじめ、DVにセクハラ、障がい者や病

人に対する処遇、高齢者に対する介護虐待、社会的立場による差別など、これらに被害者となる状況が起こっている中、社会を構成する「一人の人間」として認められ、「誇りある生き方」を保障する権利を獲得しなければならぬと教えていただきました。

午後からは、4人のパネ

リストの方々に入権についてそれぞれ事例を語っていただき、人間として誇りを持って、相手を認め、相手を認め合いながら生きて行こうと教えていただきました。

分科会に参加した方々も最後の最後まで聞いていただき、有意義な分科会になりました。

先生より発表がありました。発表では、地域と連携したスローフード学習を通して、子どもたちが変わった様子や保護者の声等の紹介がありました。

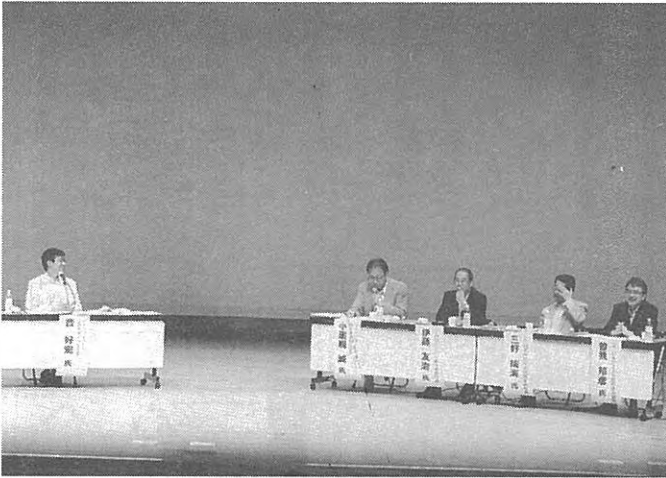
パネルディスカッションでは、コーディネーターと4名のパネリストにより、研究課題である「生活の基本である食の原点を考え、食を通して健全な子どもたちを育もう！」について熱く議論されました。参加者もほとんどの方が最後まで残られ、すばらしい分科会でした。

特別第1 分科会 「青少年とメディア」リテラシーへの 取り組み、メディアから見たPTA」

特別第1分科会報告

万葉の時代国府が置かれた、史都多賀城市の多賀城文化センターにて行われた特別第1分科会では、「青少年とメディア」リテラシーへの取り組み、メディアから見たPTA」を研究課題として、日本PTAの活動が放送メディアにどのように受け止められているのか、またテレビは子どもたちのために何ができるのかについて意見が交換され、PTAとテレビの新しい関係が考えられた。

大日向雅美教授による基調講演と、民放連の三好晴海氏の報告に続いて、音好宏教授をコーディネーターに4名のパネリストをお迎えしてのシンポジウム、そして子どもたちの元気なアトラクションが行われました。



特別第1分科会シンポジウムにて

基調講演

「視聴者意見に見る親子像、子どもはテレビをどう受容しているか」



大日向雅美氏

NHKと民放各社で構成する放送界の第三者機関「放送倫理・番組向上委員会(BPO)」の放送と青少年に関する委員会での議論を踏まえ、「放送の青少年に与える影響」に関する視察者意見や、委員会の考え方を紹介。あわせて、発達心理学(親子関係・家族問題)から見た「青少年とメディアのあり方」を考察する。

講演要旨

恵泉女学院大学大学院平和学研究所教授 専門分野 発達心理学

講演内容

BPO・青少年委員会に寄せられる視聴者意見や、委員会での議論の紹介・分析を踏まえて、子どものテレビ観、そして親子関係の捉え直しについて、サゼッションをいただいた。

講師紹介

大日向 雅美 (おおひなた まさみ)氏 1950年生まれ。

報告者紹介

三好 晴海 (みよし はれみ)氏 1950年生まれ (社)日本民間放送連盟業務部長

報告内容

2006年度から5年計画で、民放連が東京大学大学院情報学環メロプロジェクトと共同研究事業として実施している「メディアリテラシー実践プロジェクト」の概要と成果を報告。ラジオを含む全国の放送局で実施した事例を紹介しながら、放送局側が考えるメディアリテラシー活動の方

【(社)日本民間放送連盟とは】民放連と略して呼ばれ、一般放送事業者を会員とし、現在201社が加盟している。「民放共通の問題」を処理し、「民放の公共的使命達成」を目的として組織された。最近の主な事業は、デジタル放送移行に関する諸課題に取り組むほか、放送基準の遵守・徹底や青少年向け番組の充実をはじめとする放送倫理向上策の推進などを行っている。

【BPOとは】放送界の第三者委員である、「放送と人権等権利に関する委員会(人権委員会・旧BRCC)」「放送と青少年に関する委員会(青少年委員会)」「放送倫理検証委員会(検証委員会)」の3つの委員会を運営している。

午後からは、民放連業務部長三好晴海氏による「メディアリテラシー実践プロジェクト」の概要と成果の報告があり、引き続き上智大学教授の音好宏氏をコーディネーターに、ジャーナリストの小田桐誠氏、TBSテレビの伊藤友治氏、民放連の三好晴海氏、日P前会長の曾我邦彦氏をパネリストに、青少年と放送メディアをめぐる問題について、放送の使命と役割、家庭環境や家族の会話、しつ

【コーディネーター紹介】音好宏 (おと よしひろ)氏 1961年札幌生まれ 上智大学文学部教授 専門はメディア論、情報社会論

【パネリスト紹介】小田桐 誠 (おだぎり まこと)氏 1953年青森生まれ ジャーナリスト BPO・放送と青少年に関する委員会委員 伊藤 友治 (いとう ゆうじ)氏 1953年福島県郡山市生まれ TBSテレビ編成考査局長 (社)日本民間放送連盟業務部長 曾我 邦彦 (そが くにひこ)氏 (社)日本PTA全国協議会前会長

特別第2 分科会 「地域と学校をつなぐPTAの役割」

特別第2分科会報告

近年地域の教育力の低下が指摘されている中で、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てることが重要となつていいます。文部科学省では、子どもたちの教育の充実や地域の教育力の向上等を目的として、学校の求めに応じて地域の方々がボランティアとして学校の活動を支援する「学校支援地域本部事業」に取り組んでいます。各学校で取り組む上で、保護者の協力は不可欠であり、PTAと一体となって取り組むことが必要です。本分科会では、地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりを進める上で、その中心となるPTAの役割について考えていきます。

現状と課題

近年地域の教育力の低下が指摘されている中で、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てることが重要となつていいます。文部科学省では、子どもたちの教育の充実や地域の教育力の向上等を目的として、学校の求めに応じて地域の方々がボランティアとして学校の活動を支援する「学校支援地域本部事業」に取り組んでいます。各学校で取り組む上で、保護者の協力は不可欠であり、PTAと一体となって取り組むことが必要です。本分科会では、地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりを進める上で、その中心となるPTAの役割について考えていきます。

討議の視点

学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てることが重要となつていいます。文部科学省では、子どもたちの教育の充実や地域の教育力の向上等を目的として、学校の求めに応じて地域の方々がボランティアとして学校の活動を支援する「学校支援地域本部事業」に取り組んでいます。各学校で取り組む上で、保護者の協力は不可欠であり、PTAと一体となって取り組むことが必要です。本分科会では、地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりを進める上で、その中心となるPTAの役割について考えていきます。

特別第2分科会報告

特別第2分科会は仙台市の南、名取市文化会館で開催されました。名取市は、太平洋に臨み仙台空港があり、市内には旧石器文化の遺跡の宝庫です。研究テーマ「地域と学校をつなぐPTAの役割」と題し、地域ぐるみの子育てをするための体制づくりと学校・家庭・地域を結ぶためのPTAの役割について3部構成でおこなわれました。

基調講演

「日本の未来を担う人づくり」

講師紹介

茂木 賢三郎 (もぎ けんざぶろう)氏 独立行政法人日本芸術文化振興会理事長 キッコマン株式会社相

講演要旨

日本は、経済大国であり福祉大国でもある。生活水準も高いし、過去六十数年にわたって平和を享受している。ところが、いま多くの人が不安感や閉塞感を感じている。おそらく、現在は一応満足な生活が出来てはいるが、日本が国家として脆弱性を持ち、自分たちが去ったあとでも子供たちが孫たちがみな生甲斐や意欲を持って国を運営し、幸せに生き続けてくれるだろうという確信が持てない」と感じる人が少な

対談

「ボランティアの力で教育をサポート」

対談者紹介

ヨーコ・ゼッターランド (よこ せつたーらんど)氏 スポーツキャスター バルセロナ五輪、アトランタ五輪女子バレーボール USA代表(銅メダリス

パネリスト紹介

赤間 裕子 (あかま ひろこ)氏 フリーキャスター 宮城 良勝 (みやぎ よしかつ)氏 (みやぎ よしかつ)氏 沖縄県名護市屋部中学校区学校支援地域本部事業コーディネーター 本間 良行 (ほんま よしゆき)氏 新潟市立坂井東小学校校長 遠藤 正明 (えんどう まさあき)氏 (社)日本PTA全国協議会副会長



特別第2分科会シンポジウムにて

はじめに基調講演「日本の未来を担う人づくり」、日本芸術文化振興会理事長・キッコマン(株)相談役・茂木賢三郎氏。次に対談、ヨーコ・ゼッターランドさんと文部科学省生涯学習政策局板東久美子局長。スポーツコメントーター・元バレーボール五輪USA代表のゼッターランドさんの選手としての生き方や、現在、指導者として地域活動の観点から実体験を交えながらのお話はとても興味深いものでした。聞き手の板東局長は秋田県副知事の経験や内閣府男女共同参画局長を歴任された方です。今後のPTAのありかたなど、わかりやすく話してくださり、子育ての先輩としても身近に感じることができました。

そしてシンポジウムは青森中央学院大学高橋興教授をコーディネーターとし、「学校・家庭・地域を結ぶ」について語っていただきました。4人のパネリストの発言はそれぞれの立場からよく理解できるもので、また、個性も光りたいへん楽しく、参加者がそれぞれ深く考えるよい機会となりました。印象として、ゆったりとした時間の中、皆が向き合ってまっすぐに語り合えたといった感の充実した分科会でした。そのような分科会を、運営してくだされた名取市PTA、櫻井実行委員長を中心とする元気印の「チーム名取」の団結力は本当にすばらしい

ものでした。主催の文部科学省との連携、ぎりぎりまでのつめを丁寧にこなす、当日は役員全員が真心の笑顔で迎えてくれました。まさに、本分科会のテーマである「結ぶ」つながる姿をお見せしてくれました。「チーム名取」で元気をもちることができたさわやかな感動の分科会でした。

多分、昔の方が、貧しくても、もう少し充実感・安心感があったのだ。日本社会はいつの間にか大きく変質してきている。社会の変質は、それぞれの地域において特に初等・中等教育に影響し、影響を受けた教育がさらに社会を変質させるというサイクルがあるように思われる。国づくりの基は人づくり、すなわち教育である。社会をより良いものにするためには、教育の問題点を掘り出して改善せねばならない。と同時に、教育に多大の影響を与える社会を、教育を支える役割を担うようなものにならなければならない。

「ボランティアの力で教育をサポート」

【コーディネーター紹介】板東 久美子 (ばんどう くみこ)氏 文部科学省生涯学習政策局長

【コーディネーター紹介】小田桐 誠 (おだぎり まこと)氏 1953年青森生まれ ジャーナリスト BPO・放送と青少年に関する委員会委員 伊藤 友治 (いとう ゆうじ)氏 1953年福島県郡山市生まれ TBSテレビ編成考査局長 (社)日本民間放送連盟業務部長 曾我 邦彦 (そが くにひこ)氏 (社)日本PTA全国協議会前会長

【パネリスト紹介】小田桐 誠 (おだぎり まこと)氏 1953年青森生まれ ジャーナリスト BPO・放送と青少年に関する委員会委員 伊藤 友治 (いとう ゆうじ)氏 1953年福島県郡山市生まれ TBSテレビ編成考査局長 (社)日本民間放送連盟業務部長 曾我 邦彦 (そが くにひこ)氏 (社)日本PTA全国協議会前会長

【コーディネーター紹介】板東 久美子 (ばんどう くみこ)氏 文部科学省生涯学習政策局長

【パネリスト紹介】赤間 裕子 (あかま ひろこ)氏 フリーキャスター 宮城 良勝 (みやぎ よしかつ)氏 (みやぎ よしかつ)氏 沖縄県名護市屋部中学校区学校支援地域本部事業コーディネーター 本間 良行 (ほんま よしゆき)氏 新潟市立坂井東小学校校長 遠藤 正明 (えんどう まさあき)氏 (社)日本PTA全国協議会副会長

【コーディネーター紹介】板東 久美子 (ばんどう くみこ)氏 文部科学省生涯学習政策局長

【パネリスト紹介】赤間 裕子 (あかま ひろこ)氏 フリーキャスター 宮城 良勝 (みやぎ よしかつ)氏 (みやぎ よしかつ)氏 沖縄県名護市屋部中学校区学校支援地域本部事業コーディネーター 本間 良行 (ほんま よしゆき)氏 新潟市立坂井東小学校校長 遠藤 正明 (えんどう まさあき)氏 (社)日本PTA全国協議会副会長



板東久美子氏(左)とヨーコ・ゼッターランド氏

文部科学省

「親子でつくろう我が家のルール」

文部科学省では、7作品の優秀作品が選定された。

文部科学省では、7作品の優秀作品が選定された。平成21年7月31日、受賞者とその家族を招き、塩谷文部科学大臣との懇談や選考委員との意見交換会を行った。

第51回「教育・文化週間」が開幕

「教育・文化週間」は、我が国の教育・文化に関する関心を深めて頂くことを目的として、毎年11月7日から11月17日まで開催される。

「THE ハプスブルク」展開催

9月25日(金)〜12月14日(月)。国立新美術館(東京・六本木)。当日一般1500円、大学生1200円、高校生800円、中学生以下無料。



ディエゴ・ベラスケス「白衣の女王マルガリータ・テレサ」1656年頃。ウィーン美術史美術館蔵。

【京都国立博物館】

当館では、10月10日(土)から11月23日(月)祝まで、特別展「日蓮と法華の名宝」を開催します。



日蓮聖人坐像 院興作 京都・妙覚寺蔵

【九州国立博物館】

このたび、九州国立博物館は開館4周年を迎え、これを記念した特別展「古代九州の国宝」を開催いたします。



つた経州物をげの九博をり下製立蔵飾り銅筒国館

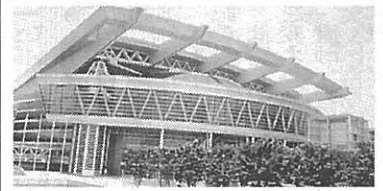
校訓を活かした学校づくりの取り組みについて報告

1. 趣旨・背景 文部科学省では、平成21年6月に「校訓等を活かした学校づくりの推進会議」を設置し、校訓等(一般的な校訓や学校教育目標、スローガン等)の意義やそれらを活用した学校づくりの在り方等について審議を行い、同年8月に同会議の報告書を取りまとめました。

第21回全国生涯学習フェスティバル

「まなびピア埼玉2009」

今年で21回目を迎える全国生涯学習フェスティバル(愛称:まなびピア埼玉2009)は、10月30日(金)〜11月3日(火)までの5日間、埼玉県で開催されます。



メイン会場となる「さいたまスーパーアリーナ」

今回のフェスティバルでは、「彩の国まなびと夢を未来に向けて」のキャッチフレーズのもと、生涯学習を通して育まれる「学び輝く彩の国」のエネルギー、学びあいが生まれる多彩な活力を埼玉から全国へ発信します。

また、県内全70市町村を会場として、多彩な学びや豊かな体験・交流の場を提供します。メイン会場は、JRさいたま新都心駅前にあり、仙台、長野、新潟からも日帰り圏という、抜群の交通アクセスを誇ります。

また、県内全70市町村を会場として、多彩な学びや豊かな体験・交流の場を提供します。メイン会場は、JRさいたま新都心駅前にあり、仙台、長野、新潟からも日帰り圏という、抜群の交通アクセスを誇ります。

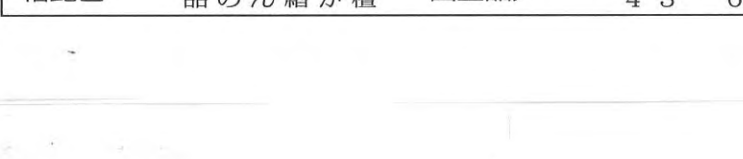
また、県内全70市町村を会場として、多彩な学びや豊かな体験・交流の場を提供します。メイン会場は、JRさいたま新都心駅前にあり、仙台、長野、新潟からも日帰り圏という、抜群の交通アクセスを誇ります。

また、県内全70市町村を会場として、多彩な学びや豊かな体験・交流の場を提供します。メイン会場は、JRさいたま新都心駅前にあり、仙台、長野、新潟からも日帰り圏という、抜群の交通アクセスを誇ります。

また、県内全70市町村を会場として、多彩な学びや豊かな体験・交流の場を提供します。メイン会場は、JRさいたま新都心駅前にあり、仙台、長野、新潟からも日帰り圏という、抜群の交通アクセスを誇ります。

また、県内全70市町村を会場として、多彩な学びや豊かな体験・交流の場を提供します。メイン会場は、JRさいたま新都心駅前にあり、仙台、長野、新潟からも日帰り圏という、抜群の交通アクセスを誇ります。

また、県内全70市町村を会場として、多彩な学びや豊かな体験・交流の場を提供します。メイン会場は、JRさいたま新都心駅前にあり、仙台、長野、新潟からも日帰り圏という、抜群の交通アクセスを誇ります。



木面槽 紫檀

各ブロック大会のお知らせ

北海道ブロック

釧路大会

10月3・4日

大会スローガン 豊かな北の大地で子どもたちの生きる力を育むPTA活動

会場 釧路市観光国際交流センター、釧路市生涯学習センター、釧路キャッスルホテル

記念講演 演題 「富士山から日本を愛する」
講師 野口健氏(アルヒニスト)

関東ブロック

山梨大会

10月16・17日

大会スローガン 「富士山発 子どもたちの未来へ」

会場 富士山アリーナ、忍野村民ふれあいセンター、郡内地域地場産業振興センター、山中湖村公民館、富士ふれあいセンター、勝山ふれあいセンター、なるさわ富士山博物館、恩賜林庭園・林業センター、環境科学研究所

記念講演 演題 「富士山から日本を愛する」
講師 野口健氏(アルヒニスト)

東京ブロック

平成22年1月23日(隔年開催)

大会スローガン 未定

東海北陸ブロック

名古屋大会

10月23・24日

大会テーマ 「未来へ、今できること」

会場 未定

近畿ブロック

和歌山大会

11月3日

大会スローガン 「和(な)みこころつれもていこう」

会場 和歌山県民文化会館、アパローム紀の国、和歌山東急イン

中国ブロック

島根県松江大会

11月7日

大会主題 「親子で語ろう 生きる力」

会場 くにきびメッセ

四国ブロック

高知大会

10月18日

大会スローガン 「子どもは宝、ともに歩もう、未来にむけて」

会場 高知県立県民文化ホール、高知会館

九州ブロック

福岡県大会

10月24・25日

大会スローガン 拓く未来、素晴らしい子どもを育てよう

会場 福岡市民会館、石橋文化センター、サンライズ稲木、ユメニティのおがた、クロバンプラザ、飯塚コスモスモン、伊都文化会館、柳川市民会館、サザンクス筑後、福岡サンパレス

「あるPTA会長の日記から」

次世代を担う子どもたちが将来、社会の一員として他者とかかわり、共に生きる心や社会に貢献するという強い意志を持つ、自分の進路を選択し、独り立ち出来る様に育つには、何が必要でしょうか？ 先ず現在の子どもたちの困った現状を考慮して、①子どもたちの生活行動では、いじ

「心を通い合わせる」ことの大切さ

「つながり」が大事にないかにかかわる「コミュニケーション力」が身に付けば、物事に対する関心・意欲や思考力、判断力、表現力などの学力が高まっていきます。そして、③取り巻く環境の課題を解決するには、学

健全育成とキャリア教育

学校が核となる新たな地域づくり

地域・保護者と学校が一体となった心の教育と生きる力の育成

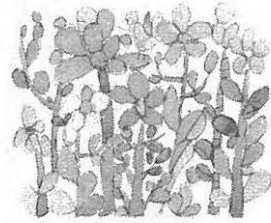
東京・大田区はものづくりの町として全国的に有名である。多くの町工場が先端技術を駆使して日本のものづくりを支えている。

本校は、その大田区の最大の繁華街を抱えたJR蒲田駅前であり、学区には大きな商店街や町工場、住宅などが混在している。

「あじさい運動」このような地域のなかで、関係小学校とPTA、関係町会など進めている健全育成の取り組み「あじさい運動」がある。

Column

学校の窓から



シリーズ③

「あじさい運動」に関わる全ての人々が参加している。また、月1回の「あじさい会」には、PTA、保護司、民生児童委員と学校関係者が参加し、様々な情報交換を

「あじさい運動」に携わって頂くため「あじさい」子どもの光発表活動の取り組みをすすめている。

「あじさい運動」に関わる全ての人々が参加している。また、月1回の「あじさい会」には、PTA、保護司、民生児童委員と学校関係者が参加し、様々な情報交換を

「あじさい運動」に関わる全ての人々が参加している。また、月1回の「あじさい会」には、PTA、保護司、民生児童委員と学校関係者が参加し、様々な情報交換を

「あじさい運動」に関わる全ての人々が参加している。また、月1回の「あじさい会」には、PTA、保護司、民生児童委員と学校関係者が参加し、様々な情報交換を

「あじさい運動」に関わる全ての人々が参加している。また、月1回の「あじさい会」には、PTA、保護司、民生児童委員と学校関係者が参加し、様々な情報交換を

「あじさい運動」に関わる全ての人々が参加している。また、月1回の「あじさい会」には、PTA、保護司、民生児童委員と学校関係者が参加し、様々な情報交換を

「あじさい運動」に関わる全ての人々が参加している。また、月1回の「あじさい会」には、PTA、保護司、民生児童委員と学校関係者が参加し、様々な情報交換を



通信風そよ

今号は第57回日本PTA全国研究大会みやぎ大会の報告を特集として掲載しました。8000人を集めた大会の成功も、地域の会員一人ひとりの支えがあったからこそです。